

中学生に望むこと
- 志(こころざし)高く生きよう -

開倫塾
塾長 林 明夫

お読みになりやすいように、QandA の形で書かせていただきます。

Q : よろしくお願いいたします。自己紹介をお願いします。

A : (林明夫 : 以下省略)経済同友会から本日の出張授業の講師として派遣された林明夫(はやしあきお)です。どうかよろしくお願います。まずは、次の文章をお読み下さい。

大不況期の過ごし方を考える

- 現状をしっかりと見すえた上で、自分自身の手で未来を切り開こう -

Q : 日本を含め世界中で大不況のようですね。

A : (林明夫 : 以下省略)その通りです。1929 年からの世界大恐慌のようにならないように、日本や世界のリーダーたちが立ち上がり、各国が力を合わせながら、各々国としてできる最大限の努力をしています。

Q : このような大不況の時期は、どのように過ごしたらよいとお考えですか。

A : まずは、現状をしっかりと見すえることが大事と考えます。各国の歴史や世界史の教科書に必ず載るような出来事が、何週間か前から発生しています。新聞を毎日一面からしっかりと読んで、日本や世界で何が起きているのか、日本や世界のリーダーたちは、それにどう対応しようとしているのかを「理解」して下さい。「新聞を読んで自分の力で考える」ことが、今ほど大切な時期はありません。

Q : 日本や世界の現状を「理解」した上で、何をしたらよいのでしょうか。

A : 大不況という時代に合った生き方をする以外にありません。大不況という時代は、お金がどんどん出ていく割にはお金が入ってこない、つまり「金まわり」が極端に悪くなる時代です。そのような時代に、自分で自分の身を守るために一番よいのは、「もったいない」の生き方に徹することであると私は思います。ものを大切に大切にすること。お金は大切に使うこと。今やっていることを大切に、まじめにしっかりと行うことが大切です。

Q：例えば、どのようなことですか。

A：(1)今、学校で学んでいる人は、この大不況の時期に「学校で学ぶことができること」を大切に考えて、今、学んでいることを学校にいる間にしっかりと身に付けることです。

「ノート」や「筆記用具」は最後まで使い切る。「教科書」や「参考書」はスミからスミまでしっかりと「理解」した上で「覚え切る」。教室など学校の施設や自宅の自分で使う部屋を整理整頓(せいりせんとな)し、いつまでも使えるようにする。

(2)食べ物は、自分で食べられるだけ食器に取り、ゆっくりとかみしめながら食べ、残さないようにする。

(3)病気がある場合は、どんどんお医者さんに診てもらい、全力を傾けてできるだけ早く治すようにする。病気とは真正面から闘う。できるだけ病気にならないように、最大限気をつける。(外から帰ったら、薬用石けんで手のくるぶしまで2回洗い、うがいを何回もすることで、病気にならないようにする。食後の歯みがきは、おっくうがらないで毎食後確実に行う。歯科医院に定期的に行き、虫歯をつくらない。etc.)

Q：随分(ずいぶん)基本的なことですね。

A：この大不況は、これから何年間か、日本だけでなく世界中で続くと思われれます。学校を卒業した人が仕事に就くことが難しい、今仕事に就いている人が仕事を失うことも多くなる時代に入っていき可能性が極めて高い時代に、日本だけでなく世界中が入っていくとも思われれます。

ですから、学校で学ぶ皆様も含めて、この世の中で生きている人は一人残らず、新聞を考えながら読むことで、今世の中で起きている現実をしっかりと冷静に認識した上で毎日の生活をしっかりと見つめ、一步一步着実に、今やれることを確実にやり抜くことが求められると考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：このような時こそ、「何のために自分は生きるのか」、「どのような生き方を自分はしたいのか」、「何のために上級学校に進学するのか」、「そのためには今何をしなければならないのか」などの一見難しいと思われることを、腰を落ち着けて深く考えることが大事かと思えます。

人間の歴史の上で、今日ほど物があふれ、お金や情報が行き交う時代はありません。今でも、明日食べる物がなく生活に困っている人々は何十億人もいます。日本にもそのような方はたくさんいます。たとえ小学生、中学生、高校生であろうと、日本や世界の現実を自分なりに直視し、自分の生き方を自分の力で決め、自分の責任で生き抜く時代に入ったと私は考えます。

一番大切なのは、「高い志(こころざし)」です。自分に与えられた社会的使命(mission、ミッション)とは何かを自覚して、一生を生き貫くこと。「一所懸命」に「一つの所で命を懸けるくらい熱心に」、勉強に、仕事に、社会活動に、また、よい家庭をつくる、よい地域社会をつくるために、一人ひとりがその人なりに努力をする。このような生き方が求められるのが、既に迎えてしまった大不況の時代であると私は考えます。皆様は、どのようにお考えになりますか。

- 2008年10月16日記 -

— 御参考までに —

- (1) 「読書の秋」です。このような時代にこそ、人々は困難な時代をどのように乗り切ったかを知るために、日本や世界の人々の「伝記」をじっくりと読むことをおすすめします。一番のおすすめは、幕末から明治維新を生き抜いた福沢諭吉の「福翁自伝(ふくおうじでん)」です。シュリーマンの「古代への情熱」も、何のために生きるのかを考える上でとても参考になります。「伝記」を読んで興味がわいてきたら、その当時の歴史や地理などを調べてみると、よい勉強になります。
- (2) この秋に皆様の前で起こっている世界恐慌発生寸前の大不況や、世界中がスクラムを組んでそうならないように取り組んでいることは、何十年後に日本史や世界史の教科書に必ず載るような内容です。そのような日本や世界の歴史の上で重要な出来事のまっただ中に、今我々は暮らしていることを考え、新聞だけは毎日一面からじっくりなめるようにお読みになることを、また、大切と思われる記事は切り抜き、スクラップブックに貼り付けておくことをおすすめします。

Q：この文章は何ですか。

A：この文章の前半は、私が 21 年間担当している CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」10 月 18 日午前 9 時 15 分～ 25 分放送の内容です。全文は、11 月 1 日発行の「開倫塾ニュース(毎月 1 回、1 日発行)」の「巻頭言」の内容です。

Q：林さんは、この文章で何が言いたいのですか。

A：文花中学校から中学 3 年生の皆様にお話するように私に与えられた今日のテーマは、「中学生に望むこと」です。中学生に何を望むのかの私の答えが、この文章であります。

今、日本や世界で何が起きているのかを正確に「理解」し、どうしたらよいかを自分のこととして考え、自分の責任で行動するために、中学 3 年生の皆様はまずはしっかりと新聞を毎日一面からなめるようによく読み、考えていただきたいということです。

世界の多くの国々では貧困に苦しんでいるのに、8 割もの方が大学などの「高等教育機関」に進学できるこの日本という国は本当に素晴らしい国だと私は考えます。苦しいこともあるかもしれませんが、そのような学ぶ機会(チャンス)のある日本に皆様は生活しているのですから、そのチャンスを最大限に活用して下さい。

高校でよい成績を取り続ければ、大学等に進学するときに奨学金を活用できる機会(チャンス)が生まれます。大学等でよい成績を取り続ければ、「大学院」に進学するときに奨学金を活用できる機会(チャンス)が生まれます。

* 現代社会は、知識が基盤となった社会(知識基盤社会)ですので、仕事や社会的な活動をするには高度な専門的な知識・技能が求められます。大学等だけでは不十分なため、その上の「大学院」での教育や研究が必要な場合が激増しています。一度社会に出てからも、大学や大学院に何回も入り直し、一生かけて学び続けることが求められるのが現代社会であると、私は考えます。

Q：今、中学生なので、高校のことは少しは考えていますが、その先の大学や大学院のことまで考えたことはあまりありませんでした。考えたほうがよいのですか。

A：自分は何のために生きるのか、どのような仕事や社会活動がしたいのか、どのような生き方がしたいのかを考えれば、当然そのためには現代社会ではどのようなことを学ばなければならないのか、身に付けなければならないのかがわかってきます。

まして、世界で最も物価、生活費の高いといわれる東京の中心部で生活するためには、相当の収入を自分の力で確保し続けなければなりませんので、ある一定以上のレベルの仕事をしなければなりません。そのためには、「自己責任」「自助努力」で高校、大学、できれば大学院とより高度な内容を学び続ける以外にありません。

Q：高校入試が目前に迫っていますので、そのような難しいことは考えられません。

A：確かにそうかもしれませんね。しかし、ものごとは考えようで、高校入試のための受験勉強をもっと積極的に行うことも大切です。「高校入試の勉強は、義務教育 9 年間の総まとめとして行う」。また、十分「理解」していなかったことを「理解」する、十分「定着」していなかったこと、つまり身に付いていなかったことを、高校入試の勉強を通して自分の将来のためにしっかり身に付ける。単に合格すればよいというだけでなく、このようにより積極的に高校入試を考えたらいと私は思います。

Q：「自己責任」「自助努力」とは何ですか。

A：「自己責任」とは、自分の行動には自分で責任をもつということです。「自助努力」とは、自分の身は自分で助ける努力をするということです。英語で self-help(セルフ・ヘルプ)といいます。

私が中学 3 年生の皆様に見ることは、これから先は、死ぬまで、「自己責任」「自助努力」を基本にしながら生きていこうがよいのではないかとということです。

Q：とりあえずどうしたらよいのですか。

A：皆様の多くは、あと何か月か先に高校入試を受験すると思います。

小学校での教育を「初等教育」といいます。世界には、小学校での「初等教育」が受けられない人々がたくさんいます。

中学校や高校での教育を「中等教育」といいます。中等教育を受けられない人々はさらに多くいます。

皆様の多くは、中等教育の後半、難しいことばでいうと「後期中等教育」である「高等学校」での教育を受けられる機会(チャンス)がおりになるのですから、中学校での勉強を十分した上で、高校へ進学して立派に勉強していただきたいと希望します。

また、日本では、高校を卒業した人の 8 割弱が大学・短期大学・専門学校などの「高等教育機関」に進学する機会(チャンス)に恵まれています。

このような機会(チャンス)に恵まれた皆様は、高校に行ったらどのようなことを学ぶのかも、受験勉強をしながらいつも考えておくことをおすすめします。「私はこのような生き方をしたい、だから高校に行ってこのようなことを学びたい」と、受験勉強をしながらいつも考え、し

っかりとした考えをもって高校に進学なさることが大切です。どうか「志(こころざし)」を高くもっていただきたい。

大変な経済状況であればあるほど、「高い志」をもった生き方を中学生のうちからすることを望みます。

Q：具体的には、どのような勉強をしたらよいとお考えですか。

A：(1)小学校、中学校、高校の教科書に出ているくらいの内容は、世の中に出て最低限必要です。小学校、中学校、高校など学校で学ぶ内容は、すべて世の中に出て役に立ちます。役に立たないことは1つもありません。ですから、学校の授業をまじめに受けて「スミからスミまで」完全に「うん、なるほど」と「理解」して下さい。よくわからないところがあれば遠慮しないで先生に質問して下さいね。

よくわかった「理解」した内容については、声を出して読む練習つまり「音読練習」、何回も何回も紙に書いて覚える練習つまり「書き取り練習」、同じ問題を何回もやり、パッパッと答えが出るまでにする「計算・問題練習」の「3大練習」を徹底的にやって下さい。

(2)教科の勉強以外の学校での活動も、すべて社会に出てから役に立ちます。「部活動」、「クラブ活動」、「学級会活動」、「班活動」、「当番」、「掃除」、「生徒会活動」、「給食」、「運動会」、「文化祭」、「自然体験学習」、「修学旅行」、「芸術鑑賞」、「全校集会」、「始業式」、「終業式」、「卒業式」、「開校記念日」など様々な学校行事は、すべて社会に出て役に立ちます。

(3)一番役に立つのは、学校を「欠席」しないこと、「遅刻」しないこと、「早退」しないこと、「トイレ掃除(そうじ)」当番です。授業中は手を机の上に置き、先生の目を見てしっかり授業を受けること、必要なことはノート(メモ)を取り続けること。授業中のテキストや「ノート(メモ)」を授業後何回も何回も読み直し、スミからスミまで身に付けること。授業中は、おしゃべりや居眠り、携帯電話など授業以外のことを一切しないで、授業に集中すること。これらのものごとの学び方は、社会に出て非常に役に立ちます。

Q：学校での生活や教科の勉強はすべて役に立つのですね。ところで、社会に出て必要な能力とはどのようなものだとお考えですか。

A：3つありますといたいのですが、私の考えでは、社会に出て必要な能力は5つあります。1つ1つ御説明いたしますから、しっかり「理解」して下さいね。

まず第1は、「自律的に活動する能力」です。自分の行動は自分で律(りっ)する、コントロールすることのできる能力です。

(1)そのためには、高い志(こころざし)をもつことが大切です。「高い志」をもち、その「志」を持続しようと考えれば、自分自身の行動をコントロールすることができるからです。

(2) また、社会のルールを知ることも大切です。法律で禁じられている犯罪行為や相手に損害を与えるような不法行為は、避けることが大切です。そのためには、何が国家刑罰権の発動の原因となる犯罪なのか、何が損害賠償の原因となる不法行為なのかをよく勉強して知ることが大切です。もっと言えば、自分はどのような法律上の権利と義務をもっているのかをよく勉強して知ることが、「自律的に活動する能力」を身に付けるためには必要です。

(3) 自分になされたら悲しいことは、他人にもしないことも大切です。相手の感情に配慮した生き方をすることができることも、「自律的に活動する能力」と私は考えます。

(4) 自分を大切にすると同じように、自分以外の他人の人間の尊厳(そんげん)を大切にしたい生き方を身に付けることが、この「自律的に活動する能力」の中で最も大切かと私は考えます。

(5) 現代日本は、「超高齢化時代」です。日本は、世界でも1～2を争うほどの「長寿社会」です。平均寿命の世界一長い、つまり世界一長生きできる国です。「幸福とは何か」「何が幸せか」と問われれば、「長生きできること」「この世の中に長く生きることができること」と世界中の人々が夢見てきました。その意味で、日本に住む人々は世界で最も幸せ、幸福といえます。

私は、これからの世界一の長寿社会日本では、自分の行動は自分でコントロールする「自律的に活動する能力」を身に付けて、「いつまでも若々しく生きる」ことを目指すことが大切かと考えます。

Q：2つ目は何ですか。

A：「多様な集団で交流する能力」です。

(1) 現代は、また、「グローバル化」の時代でもあります。世界中の「人」や「もの」、「お金」が激しく交流し合う時代です。言葉(ことば)、文化や歴史、宗教、価値観(何を大切なものとするか)が自分自身のものと全く異なった人々、集団の中で交流することのできる能力が、今日ほど求められる時代はありません。

(2) 最も大切なのは、「寛容(かんよう)」な心と私は考えます。「寛容」とは、「寛大(かんだい)」つまり心の広くゆるやかなこと。おおやかなことで、「よく人をゆるし、受け入れること、咎(とが)めだてしないこと」と、「広辞苑(こうじえん)」という辞書にあります。

「異端的な少数意見発表の自由を認め、そうした意見の人を差別待遇しないこと」という意味も、「寛容」にはあります。(「広辞苑」による)

* このように、自分たちと同じ言葉や歴史、文化の背景をもった集団の中に、その背景の異なる人が入ってきた場合にも、「寛容」な心で交流する能力が大切です。

(3) また、逆に、自分一人が言語を異にし、歴史や文化の背景も全く異にした集団に入った場合にも、「寛容」な心で交流する能力が求められます。

(4)コミュニケーションの基本的態度として、相手があるがままの姿、存在で認めること、認めたことを相手に伝えることが大切かと私は考えます。自分自身と同じように大切な存在として、尊厳をもって接する上で、「あるがままの姿、存在」で認めることほど大切なことはないと考えます。

(5)もちろん、相手の使う言語や世界の共通語である「英語」によるコミュニケーション能力を高めたほうがよいことは言うまでもありません。ただ、最も大切なことは、「尊厳」をもって接すること、「相手があるがままの姿、存在で認めること、認めたことを相手に伝えること」であると私は確信します。

「戦争は猜疑(さいぎ)心(人をそねみうたがう心)から生ずる。心の中に平和の砦(とりで)を築こう」というユネスコ(UNESCO 国際連合教育科学文化コミュニケーション機構)の精神は尊いものだと考えます。

Q：3つ目は何ですか。

A：「知識や情報、技術などの道具を相互作用的に用いる能力」です。

(1)現代は、先ほどお話したように、知識が基盤となった社会「知識基盤社会」(英語で Knowledge Based Society、ナレッジ・ベイスト・ソサイアティといいます)です。

(2)小学校、中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、大学院などで学び自分のものとして身に付けた知識や、新聞、TV、インターネットなどから得られた情報と、様々な技術を上手に組み合わせて使いこなす能力が求められます。

(3)皆様は、中学校の3年生ですので、小学校・中学校で学んだ内容を、高校入試の勉強を通してしっかり身に付けることをおすすめします。高校や大学、短期大学、専門学校に大半の方が進学なさると思いますので、高校での勉強にも今やっている受験勉強と同じ熱心さで取り組み、しっかりと身に付けてから、高校卒業後上の学校に進学することをおすすめします。高校時代にほとんど勉強せず遊びほうけたり、生活の必要もないのにバイトばかりして高校卒業後上の学校に進学しても、学力不足では勉強に追いついていけません。しっかりと勉強して下さいね。

Q：4つ目は何ですか。

A：「学び方を学ぶ能力」です。英語で Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)といいます。どのようにしたら、一度うんなるほどと「理解」したことを自分のものとして身に付けることができるのかについての能力です。

私の考えは、先にもお話したとおり、学校の授業で、まずは「うんなるほど」と「理解」すること。先生のお話を徹底的にノートにメモし続けること。ことばの意味を知るために「辞書」で調べること、その意味を「ノート」に「メモ」し続けることも大切です。

次に、一度「うん、なるほど」と十分「理解」した内容について、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「3大練習」でテキストやノートのスミからスミまでを確実に身

に付けること。

*十分に「理解」していない内容について「3大練習」することも、全く何もしないよりは少しは効果があるかもしれないという考えもあります。しかし、「3大練習」をするのは、十分に「理解」した内容のほうがよいと私は考えます。

Q：5つ目は何ですか。

A：「読書をする能力」です。本を読むことのできる能力です。

(1)世の中には様々な本が存在します。毎日のように、新しい本が出版されています。無数に存在する本の中で、教科書に載っている本や学校・図書館にあるような評価の高い本を、学校の先生、図書館司書の先生、御家族、よく勉強している方々の意見を十分に聞きながら選択(せんたく)すべきです。

本ならどのような本を読んでもよいということはありません。例えば、爆弾のつくり方を本で読んで、爆弾をつくって人や物を害してはならないと私は考えます。本を読むにも、「自律的に活動する能力」が求められます。

(2)本のページを飛ばし飛ばし読む人がいますが、せっかくお選びになった本はじっくりと腰を落ち着けて読むべきと私は考えます。気に入った本に出会ったら、2度、3度、できれば5～6度と、少し間を空けながら読むことをおすすめします。1回目に気付かなかった著者のもの見方が、2回目、3回目に少しずつわかってきます。4～5回目には、著者はなぜこのようなことを書いているのだろうとわかりかけることもあります。

(3)本を読んで、著者の目を通してまずはものごとを考えてみる。次に、自分はそのような見方についてどう感じ、思うのかを考えてみる。本を深く読むことにより、熟慮、熟考、省察、自分自身をふり返る能力が身に付いてくると私は考えます。

(4)本を読むことの中に、「新聞を読んで考える能力」も入れていただきたいと私は希望します。日本のように、毎朝、毎夕、雨の日も、台風の日も、雪の日も、大雪の日も、各家庭や職場に確実に、極めて質の高い新聞が配達される国は、世界でも数少ないと私は思います。日本の新聞は、誇るべき日本の文化の一つとすら私には思えます。そのような新聞を、毎日一面からじっくりとなめるように読み、ものごとを批判的に考える能力も身に付けることをおすすめします。

「小学生は20分、中学生は40分、高校生以上は1時間以上、一面から新聞を読んで批判的に考える能力を身に付けよう」と、私は強くおすすめします。

ものごとを批判的に見る能力、つまり自分の力で考える力を身に付けることは大切です。

例えば、「振り込め詐欺」の事件は毎日のように新聞で詳しく報道されていますが、被害を受ける方が次から次に現れます。悪いのは犯人グループであることは当然ですが、新聞をよく読んでいる人は振り込め詐欺グループから電話があっても「これはおかしい」と批判的に考えることができますので、被害にあわずに済んでいると思われれます。

新聞に書いてあることは、各新聞社が見た社会で起きているものごとの考え方を示したものに過ぎません。ものの見方の一つに過ぎません。ですから、同じ新聞を一生読み続けることもよいのですが、時には図書館などで、いつも読んでいた新聞と違う新聞にも目を通すと、世の中にはいろいろなものの見方があるのだなあということがわかります。いくつかの新聞を読み比べることで、1つのことにも、いろいろな見方があることを学ぶのも面白いと私は考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：皆様は今、東京の墨田区というところにお住まいです。墨田区は、大江戸博物館もあり、江戸文化の中心地ともいえます。墨田タワーも着工になり、新しい日本の顔にもなるところです。墨田区の素晴らしさを是非1つでもよいですから、皆様なりに見つけて下さい。文花中学校の素晴らしさ、3年生のこのクラスの素晴らしさ、一人ひとりのお友達の素晴らしさ、先生方の素晴らしさも、是非卒業までに見つけて下さいね。東京は素晴らしい都市です。東京の素晴らしさも是非見つけて下さい。日本の素晴らしさ、日本人の素晴らしさも是非見つけて下さい。外国に行ったら、その国の素晴らしさを自分なりに見つけましょう。素晴らしさを見つけるのは大切な能力です。

それから、御家族の素晴らしさも自分の力で見つけましょう。そして、自分自身の素晴らしさを見つけて下さい。素晴らしさ、よいところを自分の力で発見して、それを思い切り自己責任、自助努力で伸ばすこと。これが今、中学生に望まれていることだと考えます。

最後に、私の育った足利市在住の書家相田みつを先生のことばを送り、今日のお話を終わります。「一生勉強、一生青春」。一生勉強し続け、いつまでも若々しく生きてまいりましょう。御清聴を感謝申し上げます。